

水源禅師法話集 79

(2017 年 5 月 6 日 大阪合宿 8 日目)

2018 年 4 月 12 日
一乗禅の会



ボルドボールの遺跡の頂上より 南面の風景写真、インドネシア

目次

水源禪師法話.....	3
理論仏教での「空」と修行だけによって観える「空」とは全然違う.....	3
タイル数学.....	4
「空」と「無」の違いは修行によってのみ体得する.....	4
実際の検証をしなければ全て空論(自分の頭の中での空想の世界になる).....	5
西洋社会では検証が必要.....	7
都市の大帝国(イスラム、ユダヤ、キリスト教は全てこの原理の下)・仏教は違う.....	8
お釈迦様は皆さんを涅槃に連れていく事だけを言っている.....	9
ジャーナカ物語「非常に警戒心が強く、非常に賢いのは今に始まった事ではない」.....	10
修行でしか観えない「空」・お釈迦様は修行でしか教えなかった.....	11
「実際やって初めてその実態が分かる」これが本当の仏教.....	12
質疑応答.....	15
良い因縁と悪い因縁.....	15
「心眼でものを本当に観る」それがヴィパッサナー・「カシナ瞑想」も一教科.....	16
仏教は体験なしに通過した場合、大変大きな問題を起こす.....	17
3つの子供がもう阿羅漢になると言う大矛盾を起こす.....	18
虹の体.....	19
仏舎利.....	20
人間と言うのは本当に狂ったもので、わからないという事は魔にも変身してしまう.....	20
江戸時代の方が幸せか？現代が幸せか？.....	21
阿羅漢にはそう簡単になれない、「心心伝印」で種を植えてもらわなければ、、.....	22
瞑想中にカチンと叩く音が？？？.....	24

水源禪師法話

理論仏教での「空」と修行だけによって観える「空」とは全然違う

やっともう8日の最終。明日、半日ありますけれど。良く皆さん、ここまで頑張って。難しい話しをしたら頭が痛くなると思うし、でもちょっと「色即是空」と言う事も、ある程度説明しておかなければいけない時に来たのかなと思ったり…。それで、お釈迦様はね、あんまり涅槃の事は言わないし、南伝では言いません。それを大乘の方では軽々しく言う様に聞こえます。これちょっと大問題なのだけれども、悪口ではないのだけれど、分からないから言うのか、どういうつもりでそう軽々しく言うのか、分からないのですけれど。

何故かと言ったら、まあ、普通の人と言うのは構わないのだけれどね。やっぱりね、社会的に名声ある責任ある方々が体感無しにお話しされるのは、後々で誤解が発生すると思いますし、ここでこれはちょっと大きな問題がありますね。未だに禪定についての論争が、南伝で体感無しの方々が 経典よりの抜粋で討論しています。

それで、涅槃の事などは覚醒されたお釈迦様でも言わないので、それを超えた悟りを体感したことになりますので、それは法を曲げることになります。とても恐ろしい事になるので、南伝の比丘の方々は口が裂けても涅槃の事は言いません。また空もしかりです。

それで、空についての説明も確りと体感していないものだから、あっちの経典、こっちの経典を書き留めて書いているけれども、カシナの瞑想法の中の一部を「空」と誤解して解説しているのですね、ここ。これは非常に大きな大問題で。だから「修行者は良くそういう修行法をとる」と書かれているのだけれども。昭和25年に書かれたのかな？ そうしたら、今から何年経つのだろうか。もう72年間、誰もこれに対して検証として、書かないという事になれば、また問題と思います。

大学の学問はやっぱりフィールド・リサーチと言って、文学でも歴史でも考古学でも、特に理工は検証で、実験結果を何回も、結果出すけれども。特に仏教としては、検証することが大切だと思います。何時書かれたのかな？ あ、1980年だ。1980年だから、37年。ちょっと説明しますね。もう少し。ちょっとこれ、これちょっと読んだら、私は頭がクラクラ、クラクラ。とっても気持ちが良かったのに、とっても頭が痛くなってね。

第七空とか、十八空とか…。ちょっと説明しますけれど。スニャータ(suññatā:空)と言うのは、実は仏教では極密になっています。私達は簡単に「空、空、空」と言って呪文だけ唱えていますけれど、それ実際の事で、修行だけによって観る事が出来ます。だから、殆どの禪師も空に到達するのは第一目標で。大乘では、完全に理論仏教になっていますね。実態とはかけ離れた事を書いていますね。特に私は理工科系なので、どうして

も「 $1+1=2$ 」とか物質的に実証が無ければ、納得出来ないわけです。それで、私が瞑想した場合には、実態であって空論ではないのです。全く空論で言葉のアヤではないのです。何故かと言ったら、大乘の大禅師で悟りを開かれた方は、習字で究極の真理を表すわけですね。一筆で。特にバーン！と丸を書くでしょう。それで「これは何か」と。

タイル数学

つまり、西洋の方ではこの前ちょっと説明した様にタイル数学と言うのが今出ています。タイル (tile)。こう合わせて。その原理はニコラ・テスラさんが説かれたのです、現代の全ての電気関係の原理ですね。無線から全て。それで、エジソンはそれを考えつかなかった。水は上から下に流れるものと。水が下から上にあがるわけないでしょうと。ところが、特別なそういう禅法を持った禅師になれば、滝を下から上に上げてしまう（笑）。それで、テスラさんになれば、結局、交流と言う事で上から下に下がり、下から上に上がると（色即是空 空即是色の原理）。こういう数学は誰から習ったかと言ったら、宇宙人らしい。宇宙人には1から9までの数はあるけれど、それ以外に無いと。全てそれに収束してしまうと。

まあ皆さんちょっと分からないと思うから、私が絵に描いて分かりやすい様にこう下手な図面でやったけれど、こういう風になるわけ。（水源師；参加者にノートを広げて見せる）。9、1、2、3、4、これ、こうなります。これが宇宙人の数学。丸い円でね、丸い円で9、1、2、3、4、5、6、7、8。それ以外なし。但し、実体は $1 \cdot 2$ 、 $4 \cdot 5$ 、 $7 \cdot 8$ 。これが物質界のこの実在の数字。3、9、6は実体とは関係ない精神界の数。だから、これは絶対に精神界は物質界の数とは交わらない。で、0は無い。但しゼロポイントは発生します。これが宇宙人の数学。

それで、これがタイル数学に発展して、確かアラン・ウッドと言う人が、こういうタイルになるわけ。こう数字並べて行ったら、簡単な。そしたら、こういうドーナツ型になるわけ。これが全宇宙の究極の姿だと言うわけです。だから、結局禅師達は観たものを表わすから、バーン！と習字で「丸」を書くわけです。合うわけなのです。

「空」と「無」の違いは修行によってのみ体得する

だから、結局ね、仏教ほどこれ程深い真理を持ったものはない。確かにそう。そしたらね、数学も説明しなければいけないし、実態と合わなければいけないけれど。頭がクラクラして痛いのも。「空と言う観念は、阿含経では重要な意味を持たされていない」。まあ、阿含経はこう言っていると言われてはいますが、**「色即是空、空即是**

色」。般若心経ね。行をやればそれを体験できる。最初に、一番、最初の出だしが「空」。「空」なのだけれど、「人空」。そこに入って行くのだけれど。

お釈迦様は書いたわけではないのです。全ては修行者から修行者に教わって、後は全て口伝なわけです。何かもう、ちょっと高度すぎるかも分からないけれども。これをやったら皆さんの頭がいたくなりますよ。そして、そうですね。言わんとしている事は「一種の観法として修行道の一部を占めている」と。「この観念が全く姿を見せているわけではない。しかし、それは一種の観法として修行道の一部を占めている」。これが何を意味するか分かりますか？観法と言うのはヴィパッサナーのことです。

その観法のヴィパッサナーの一部と言うこの観法の修行法は、カシナの瞑想法にあります。カシナの、色から入って10の観法をやって、それから物質の無い所が通説の言う空の理論に入っていくわけです。その事を言っているけれど、第七禅定の所を言っているけれども。それである日本の非常に仏教経典を読んでいる方が、「一体第八禅定はどうなっているのですか？」と。非常に語気を強めて「何をこの人は言っているのだろう？」と。この人は空を完全に経典によって誤解して、それは空と関係なく修行の一步のカシナの最終段階に入って、カシナも空間のカシナは外すわけです。ところが、何にも無いという非常に、無が、物質がある所、無い所を観なさいと。そしたら、それが無い所を空と誤解してしまって、これはカシナのサマタ（止禅）の最初の方の関門です。

これ見たらスニャター、サンスクリットでシューニャ（śūnya）と言うのだけれど。ビックリする事に、今度は「般若経を始めとした空の教理が確立するに至る」。と確立も何も、この本に拠れば。私が修行の過程でそういう観念が無いわけではないけれど。では、何を指すのか言わなければいけない。どの観法の修行で行ったのか？それが大きく外しています。これ大問題。東京大学の教授となったら日本の最高の智慧だから、それ当然備考としてここを書かなければいけないと思います。仏教講座だから一般の方々に。だから、私は何を言っているか分かるけれど。

こうしたら、一般の人がね、「修行の一部…」、「ああそうなのか」、それでおしまい。ここは法随観をやって初めてこれが何を意味するか分かるけれども。未だに日本からの修行者が、本当に法随観を、正式にやったと言う話はパオの本部では私は聞いていない。だから、こういう風な誤解があって本当の仏教の正法が未だに日本に伝わっていないのですね。それはもう何回も言っているのだけれど。だから、こういう事での様な状況になっているか判明してしまうわけなのです。

実際の検証をしなければ全て空論（自分の頭の中での空想の世界になる）

先生は昔の中国文献を深く研鑽し解析して書いていますから、その通り。それで良

いのですが、哲学と言うのはソクラテスから出ているわけです。ソクラテスは字を読めない。書けない。全てを検証によって、観察によって出来ています。でも、講座を読んだ場合には、本の解説を自分の頭で考えて、実際の検証を外した場合は、これは全て空論になります。空想の世界。実験が無い。この世は全て、もし仮説を出したらどういふ事でも、やっぱりフィールド・リサーチと言って実験して、それが実際に証明する事になります。

1800年代にソクラテスは絶対真空は存在しないと間違いがあると。フランスの科学者が真空を作ったわけです。絶対真空では無いですよ。真空。鉄と羽が同時に、空気の抵抗が無いから、一緒に落ちたわけです。ところが、ソクラテスは、その時2500年前に「真空と言うのは絶対に作れない」と、観察（仏教では ありのままに 観る 禅法あり）によって言ったわけです。現在はゼロポイントエナジーと言って絶対真空（現代物理学では宇宙空間には無量のエネルギー源）に近づけば、それが爆発してしまうのです。爆発すると言うのは、結局絶対真空になってタンクがこう凹むでしょう。急激に、バーン！と。そしたら、その絶対真空のエネルギーがこう内にバーンと、implode（内破する）と言います。私は英語の世界で生きているから、日本語では何と言うか分からない。その時のエネルギーが結局、計算上のエネルギー以上のエネルギーを出します。それで絶対真空に大変なエネルギーがあると。それをゼロポイントエナジーという事です。

と言う風に、ソクラテスは観察によって哲学して、それが実際に2500年の時空を超えて起こるわけです。お釈迦様のお言葉にも永遠の叡智なのです。だから、ここで私が言う資格もないけれど、これはおかしいではないかと。そういう責任のある叡智の方がこんな事を言って…検証（四念処の瞑想法での）するべきでは無いのですか？

それによって、結局空の世界に到達する手法を書かなければいけないし、指導しなければいけない。それで、初めて空という事が分かるのであって、ただ誰かが書いてこうだと検証なしに書いて…。と言うのは、「空」は仏教の秘密です。西洋の方々が「emptiness」と言っているけれど、論文とか色んな文献読んでも未だにその様なお言葉を説かれる禅師は聞こえません。

ミズーリ州から出たアメリカの方が45年間、仏教をやって南伝のお坊さんに一生懸命教えているのだけれども。彼があんまり色々な言うものだから「涅槃は？」って言ったら、詰まったわけです。それで彼が「では？」と問い返したから、例えて返答したら、顔が青くなるくらいに深く研鑽しているのですね。でも、アメリカで仏教の経典をいっぱい書いて、大先生と崇められているのです、これが世界に伝わっている仏教の現状です。

だから、今ではマインドフルネス。サティ（sati：念）の事、マインドフルネスと沢山の本があって。念仏、信念と。サッダ（saddha：信）、サティ。信仰、信じる。サッダ、サ

ティ。それはもう仏教の基本の結局 34 善心の一番重要な心の持ち方だけれども。信念説明もなしに説いているので誤解が発生すると思います。

ではちょっと言いますよ。何を書いているのか。「空」について。「楞伽經の七空について。相空、性自性空、行空、無行空、一切法離言說空」。それは誰も言葉で絶対説明出来ないから、そう説くのは良いのだけれど、「第一義聖智大空、マハースンニャター (Mahā-sūnyatā)」で「非非空」。何？分かる？(参加者：私も分からない。笑)もう分かった場合でも解説ダメ。一つ一つ詳しく解説しなければいけないわけです。それはサブコメントと言います。

では、もっと頭が痛くなる所。「十八空、内空、外空、内外空、空空、大空、勝義空、有為空、無為空、畢竟空、無始空、無散空、本性空、一切法空、自相空、不可得空、無性空、自性空、無性自性空」。分かる？最初の出だしが修行僧として、ヴィパッサナーでそれを行っている様だと。

それはヴィパッサナーの最終過程の事で、最初のサマタのカシナの第五禪定の空と関係ない事を解説として最初の方から書いておられます。これが日本の現状です。まあ、それはこうして問題を提起したから、誰か解説されて回答してくださるのかな？一般の人の為にまあそう願っております。

西洋社会では検証が必要

ところが、西洋の方では、それではいけないわけです。何だか訳の分からない、検証が必要だから。だから、結局アラン・ウッドと言う数学者が、最新の数学、簡単な数学ですよ。全てこの1から9に収束してしまうと。それに、0は無いと。0ポイントは有ると。これが実体で。そうして、こういう風に解説して、細かく、タイルになって、これ合わせたら、ちょうどドーナツ形になると。まあ上から見たら、バーン！とこう（丸の形状）、一筆で書けばそうなるわけです。それが空の本体だけれど。それを表すためにこれは何かと。まあ回答の道を教えたけれども、体感をしなければ意味なし。

まあそういう事で、もっと分かりやすく、今度、今の現状を言えば、過去500年、コロンブスが結局ヴェネチアの船長さんで、スペインからアメリカ大陸を発見して。それからずっとスペインが南北米、それから全世界にマゼラン海峡を通過して地球が丸いという事が分かって、全世界が回り始めましたね。やっぱり西洋社会ではトップが精神界になりますから。教会から、excommunication(破門)されますと、村八分になれば誰も口を利かないことになります。死んだら絶対に地獄に落ちると言う思想な訳ですね。

だから、ある王様が結局、村八分、excommunicationになった時に、冬に靴も履かな

いで殆ど裸みたいにして懺悔していたわけです。それでローマ法王が「よしよし、お前を許してやろう」と。その時のローマ法王の、ローマのヴァチカンの手法は、まず、神を崇めるというね。みんなでお祭りして、それで良くやるでしょう？何かマリア様を連れて歩きますね。スペイン語で何て言ったかな？（ファティマ聖母の行列）ちょっと忘れたけれど。そして、それを、こう歌を歌ったり、賛美歌を歌ったり、そして教壇に立って神の事を色々と説法するわけですね。そうして、今度はそれをずうっと続けて行くわけです。そう言う事を、何年も。

都市の大帝国（イスラム、ユダヤ、キリスト教は全てこの原理の下）・仏教は違う

そして、例えば「奇跡が起こった！」と。そう言う事を皆さんに報告して「神から色んな不思議なあれが出て来た」と。それで人が信じます。どういう風にして完全にコントロールしたかと言え、結局人々は音楽とかダンスとかゲームとか大好きだから、コロセウムという所で、結局グラディエーターと言って、人と人とを戦わせたり、ライオンとか、色んな闘い事をさせたり、また歓楽街とかそういうのをいっぱい作って、また人は怖がると。だから、恐怖もよく与えると。それでまた、人はね、食べられないで餓死したくないから、一生懸命働くと。働かせると。

と言う手法を、あの govern（支配）と言うのはちょうど control ね。だから、government と、政府と言うのは人をコントロールする機構なわけです。でそれをちゃんと監視するのが、教会の神父さん達が、結局そういう心で「こうこうこう」とこう色々説得するわけです。そして、また人が、民衆がちょうど暴動を起こしたりしたらいけないから、結局軍人を使うわけです。それでまたそれを潤滑に、社会を回すために結局お金を使う。

この三角関係で、ローマのヴァチカンはちょうど心。アメリカのワシントン DC はペンタゴンでミリタリー（軍）。お金はロンドン、イングランド。これで、Empire of the city と言います。エンパイアー・オブ・ザ・シティー。結局都市の大帝国と。

昔からスパルタン、アテネとか全部都市国家なのです。ロシアでモスクワを押さえればモスクワが都市でそこで国を全部コントロールしているでしょう？もし東京が潰れれば、全日本にもう混乱が起こる。だから、今でも city states なわけです。都市が全部コントロールする、それぞれ。隣の韓国は結局ソウル。中国は北京と。マレーシアはクアラルンプール。まあ、そういう風な機構になっています。それで、そういう所でね、結局イスラムとユダヤ教とキリスト教は全てこの原理の下で動いているわけです。仏教は違いますし、まあヒンズーも違うようです。

お釈迦様は皆さんを涅槃に連れていく事だけを言っている

それで仏教のこの最高の精神の「楞伽經」と言ったら、仏が全宇宙世界に対して報告した書であるから、ティピタカ（ti-pitaka：三蔵）にも絶対にあると思いますけれど。それはどういう風にかかれているか分からないけれども。検証しなければいけない問題だけれども。私は学者ではないし、瞑想を教えるだけだけれども、瞑想の立場からしても、これはちょっと驚きですね。この方の得る叡智が難解な文献しかないから、こう書かれたと思います。それで一生懸命研鑽されて、書かれた重要な文献だと思います。

ところが、瞑想して実際にやってしまえば、ボディー・ダルマ大師様のチッタヌパッサナー（心随観）、禅ですね。禅法。また、南伝の結局ダンマヌパッサナー（法随観）、ヴェダナヌパッサナー（受随観）、カーヤヌパッサナー（身随観）を体感した場合には、大世界で生きていけます。お釈迦様はただ一つ、皆さんを涅槃に連れて行く事なのです。お釈迦様はね、こんな難しい事を言わない様です。

西洋の方はもっと碎いて人をコントロールする方だから、結局 eye of god(神の全能の目)。あるでしょう、1ドル札の。eye of god。full of light って。だから、三角形のトップ。こう光がピカピカピカッと。それは何を意味しているかと言ったら、アーメンなのです。アーメン・ラー。だから、キリスト教では最後に「アーメン」って言うでしょう？あれはエジプトの神、神様（姿が見えない神の称号、又は創造主の称号も持つ、その神像がカイロの博物館にあります）。

だから、そういう風にね、精神界の…、日本は世界に誇る工業国で、それから秩序も良く、それから原爆に2回落とされてもこれだけもう一回立ち直って、大変な国の底力があるわけですよ。よく見える方々が少ないので、問題がよく見えない。でもトップの方々は最低、もっと深く分かり易くかみ砕いて皆さんを指導しなければいけないと思います。それで私がジャータカ物語を持って来るのは、お釈迦様は非常に分かりやすい優しい言葉で全部これを説明されているのです。



スリランカ中部の瞑想修行道場

ジャータカ物語「非常に警戒心が強く、非常に賢いのは今に始まった事ではない」

それで、ジャータカ物語のお話紹介させていただきます。この話はですね、お釈迦様がジェータバナ（Jetavana：祇園精舎）に居られた時に、その時にシャーリプトラさんと言う偉い尊者アラハト様が居ってね。そのシャーリプトラ様の生徒に、非常に、何て言うのですかね。何事に対しても非常に警戒心の強い生徒が居って、皆その事を話していたわけです。例えば、熱いご飯とかそれからまた冷たいご飯とかは、怖くて絶対食べないわけ。また、ご飯を炊きすぎても食べない。硬くても食べない。そしてまた外がとっても寒くても出て行かない。それで、それから暑くても出て行かない。何時でも、警戒心でいっぱいなわけです。そして、非常に警戒心が強いものだから、何時でも間違いを起こさないわけです。

それでそう言う事を話していたのです。お釈迦様がそういうお話を聞いて、「君達、彼はね、これが最初にこう言う風に非常に警戒心が強く非常に賢いと言うのは今に始まった事ではないのですよ」と。

「遠い遠い昔、ちょうどバラナシのブラフマダッタが王様の時にですね、私はちょうど神木だった」と。「木の神であった」と。そして、その森に棲んでいる鳥が居てね、そ

の鳥を捕ろうとする、鳥を捕ってそれを獲物にして食べるという狩人が居ると。その狩人は結局その鳥の巣に近づこうとして色々変装したり体にいっぱい色んなものを付けたり、それから罠をかけるわけですね。でも、この鳥は全て見破るわけです。

そして、何と言え、その鳥さんはね「私はたくさんのこの森の木を見ている」と。「木はね、木をよじ登たり、動きはしません」と。「だから、お前はとてもおかしい生き物である」と。そして、この鳥さんはそう言う事でこういう鳥の狩人に絶対捕まらないのです。そしたら、鳥の狩人が「お前はとっても年取った鳥で、私のかけた罠をよく知っている」と。「そして、いつも飛んで行く」と。「私の仕掛けた罠の籠の中も、それもよく壊して飛んで行ってしまおう」と。と言う風にお釈迦様が言って、その時の鳥さんが今の比丘だと。そのハンターは、狩人はデバダッタだと（笑）。

だから、こういう風に生きて行く時は、「この人間社会はちょうど　こういう風な森の様なものだから、こういうお坊さんみたいにちゃんと何時でも目を見張って気をつけて下さいよ」と。「そうでなければ、こういうデバダッタが変装して体中に木の枝を付けて、顔にも草をかけて、そうしてやっても　この鳥さんのようにしっかり見張って「木の中でよじ登って動くわけない」と。「お前はとてもおかしい木だ」と。言う風に見破って「お前は罠を仕掛けて私を捕ろうとしているのだろう」と。と言う風に飛び去って行くと。それでデバダッタは殆ど獲物が得られずに、そして家に帰って行くと。

修行でしか観えない「空」・お釈迦様は修行でしか教えなかった

と言う風にでも分かり易くお話しされるのです。「空」だの「色即是空」だの…。それは良いよ。物凄く良いよ。それを細かく解説して行かなければいけないわけです。大事な所が説かれて無いので、今言ったようにボーンと外れても、皆さんがそれを確りと理解が出来ないと思います。「観法の修行の一部であった」と。それは間違いない。でも、どのヴィパッサナーをやってどういう風になったかと言うコメントを書かなければいけないわけです。そのコメントを書いた時に、「あ、これは間違っている」と。「これは空と関係ない事言っている」と。でも、それをどっちでも採れる様に空を解かれています。

「1+1=2」と、それくらい明快に書かなければ。どっちでも取れる、何とも言えない様に書かれているから。何とでも取れます。何とでも言い切る様に見えます。それも、仏法を教える、「色即是空、空即是色」のこの語りの「空」の事を説明して始めているから。それで涅槃の事も言うし。お釈迦様は絶対言わなかった。だから、これ、ここが大問題

教学經典、仏教の大問題。だから、体験する行者がいなければ、その国が大変な事になってしまう。

だから、今回皆さんがね、良く修行されて、本当に良い行者になってくれましたので、私はもう大安心で。これで3年目。3年、10日、10日、10日と凄い結果を皆さん出されて。だから、皆さんは自信を持って相当な所まで来ているわけです。これ(本)を見て下さい、これ。東京大学の教授ですよ。1980年に出された本。未だに誰もこれに対してサブコメントも出していないと思うし、ただあるだけだと。この方はこの理論の社会では通るけれど、仏教の真理としては難しいと思います。

あなた方は今ジャータカ物語を私が話した様に、本当のお釈迦様のお話を聞かれているわけです。お釈迦様の教えはこれだけ明快で簡単なわけです。だから、私が言ったのは「『あれが仏だ』と言ったらそれは大きく間違いだ」これを言ったわけです。本に書いて、さもありなんと。その通りに読んで修行したら 深く迷うでしょうね。

本来の行者が観た「空」は、お釈迦様は修行でしか教えなかったし。だから、結局カシナの瞑想法を見て書いておられる様です。「ああ、これが空だろう！」と、そう思ったわけですね。

結局実際の事を実際に行って初めてその事が分かるのであって、ただ誰かさんが言った事を書いた事をそのままに真に受けて書けば…、人々は迷いますよ。

「実際にやって初めてその実態が分かる」これが本当の仏教

そうでなければね、検証なしに原発を造った場合には、福島の結果になりますね。結局ディーゼルエンジンの発電機を地下に造ったと。地下に造っても良いのだけれどもそれを完全に密閉して水が入らない様にして空気が入ったり出たりする様にしなければいけないわけです。それが無く地下にただ造ったと。これはちょっと異常。

と言うのは、私はサブウェイ（地下鉄）を管理する立場にあったから。一旦テロリストが入って来たら、24時間体制で何時でも発電して電車が動く様にしています。だから、その場所は秘密です。そこに私が整備士を送って検査させるわけです。ちゃんと発電させたかチェックして。そういう現場にいるものだから、結局そういうデータを一般の公表で見たら、おかしいと思うのです。

でも、こういう風に検証しなくても良い…まあ、検証は学者同士で言い合ってやるのだろうけれども。その実態の、結局「一体そうなるか？」と。「空」であれば「空」を出来る修行法を説明して、実際その人がやらなければ、これは空論になります。ただ書いている。それがまかり通れば、これは結局さっき西洋の宗教の実態、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教、原理は一体化で少しも変わりません。名前だけ違うだけです。という事も分からない。

それで結局、黒船が江戸時代に来て、日本文化を崩壊してしまう。それで良い物も全部殆ど壊してしまっ。その昔に鎖国をしたから、お坊さんがスリランカとかそういう所に行けないし。ミャンマーとか。その昔、偉い王子様が日本から天竺に向かって行ったけれど、ミャンマーあたりで行方不明になってしまったそうです。だから、日本は昔からそう言う事をしようとする素晴らしい方がいっぱい居るのに。

弘法大師様が中国に行って拝火教の使い方で（巨石文明の遙か彼方の時空の超進化社会）、結局密教の凄い修行法を持って来て、あれを言葉では表せませんよ。ある程度想像出来るけれど、実際やって初めて、その実態が分かる事であって、これを事細かに書けと言ったって誰も書けない。だから、実際にその行法を私もやりました。それが本当の仏教なのです。

まあそう言う事でとっても頭の痛い話と、お釈迦様の優しいお話とを混ぜて、お釈迦様程、こんなに優しく教えてくれる人はいないという事で、またそれに従ってやって行けば皆さんが体験した事のない体験がドンドン表れて来るでしょう？私は何も大乘を否定しているわけではないけれど、「それを日本で検証出来ないでしょうか？」と言っているのです。「お経に書かれてある事が本当であるかどうか検証して下さい」と。

私がこうして大蔵経の観音経を言うのは、私自身でこういう「波浪不能没」と言う事を検証しているわけです。ベトナムの人が水も何もなく、ただ観音様を祈ってベトナムから 150 人小さい船に乗ってインドネシアに着いて、そして、カナダに来たと。と言う検証が必要なわけです。それでまた、「釈然得解脱」と。一生懸命、お釈迦様の事を思いながら般若心経を唱えていたら、とうとうミャンマーに到達して「なるほど！」と言う事を得たと。でまた、最後「梵音海潮音」と言う観音様から海印海潮禅を受け取ってその現象を現したでしょう。

だから、この大乘経はダメと言ったらこれは大間違い。ちゃんと書かれている。この事がちゃんと発生しています。ただ「これをちゃんと読み解いて検証して、日本の皆さんにお渡ししなければいけないのではないですか？」と言ったわけです。ただそれが、結局こういう今度仏教講座で書いてこうしてこんな風に書かれたら、遠く離れてしまっ。って何が何だか分からなくなってしまうでしょう？

そしたらこれを一生懸命勉強して「これが仏教だ」となってしまうたら、今度西洋のこういう手法でやられてしまうと。それで、日本で誰も教会で「アーメン」て言うけれど、アメン・ラー。エジプトの神様（テーベ地方の氏神 BC 1200年）。クリエイター。全てここから出ています。ユダヤ教の前の話とも言われている。



小さな町で 涼みを取ってる象さん スリランカ

質疑応答

良い因縁と悪い因縁

【参加者】

すみません。因縁について、ちょっとお聞きしたいのですけれども。お釈迦様とデバダッタの様に、続いてしまう悪い因縁もあると思うのですけれども。例えばなののですけれども、それが途中まで悪くて、それが良い因縁に変わったりするって言う事もあるのですか？

【水源師】

もちろん、そうです。お釈迦様も、1500 輪廻転生の時に 1000 回は悪い人生で、500 回は菩薩行で何時も良い事ばかりしたと。だから、1500 憶えている中の 500 の菩薩行がここ (ジャータカ物語) に入るわけですね。

【参加者】

ではその 1000 回の悪い方の話って言うのもあるのですか？

【水源師】

ああ、そうです。もちろんそうです。だから、悪いお釈迦様の輪廻転生した所は、ネズミに生まれて便所の傍で生まれたとか。食べ物も殆んど無く、それも一つの悪い…。

【参加者】

質問の意図としてなののですけれども、例えば、僕と B さんが 100 生前まで喧嘩してワンワンやってしょうがなかったと。それで、50 生前になって、その 50 生の間に心が進化して、どちらかが「もう良し」となって喧嘩しなくなったとしたら、そこからまた良い因縁になって行く事があるのですか？

【水源師】

もちろん、ここで皆さん座ったらこれはもう奇跡中の奇跡だから、相当良かったのでしょう。だからね、早くニミッタを出して、強いニミッタを出して、そこを観たいと思ったら空論ではなく、ビックリするくらい実際に観たら自分の頭で思うのと実際は違います。。

【水源師】

なんか、シーンとなったけれど（笑）。やっぱり、これ考えるのですね。後もう 20 分でまた来年まで会えませんよ（笑）。

「心眼でものを本当に観る」それがヴィパッサナー・「カシナ瞑想」も一教科

【参加者】

先程のカシナって言うのもヴィパッサナーの一つなのですね？

【水源師】

まあ、ヴィパッサナーと言うのは、一般的に 10 時間、10 日間坐る事をヴィパッサナーと言っていますけれど。一般的にですよ。それは全然ヴィパッサナーとは関係ありません。

【参加者】

それはまた別の手法だという事ですか？

【水源師】

いや、ただ、何て言うのかな。長時間坐ってそのサブジェクトの内容を聞いても…本来のヴィパッサナーは、本当の意味のヴィパッサナーで、ヴィパッサナーと言うのは、「ヴィ」って言うのは隠れた、ヴィパッサナーで、「隠れた目でみる」という、心眼で物を本当に観るわけです。その訓練の為にニミッタを出して行くわけです。ニミッタを出して行って、そして、実際にカシナの瞑想法でもちゃんとイメージで、第四禅定で観て行くのですよ。第四禅定で第一の、例えば色ですね。ホワイトカシナと言ってね、第一禅定に入る。第四禅定の力でもって、カシナの第一禅定に入って行きます。そして、第一、第二、第三、第四まで行きます。それを終わったら今度は茶色とかね、黄色とか、赤とか十のカテゴリーがありますから ぜんぶで四十の瞑想法。

これはどういう意味で出来ているかと言ったら、白と言うのは骨。骨の白。そこから入って行きます。それで、スケルトン瞑想がとても重要で全部繋がっているわけです。水もやれば、火もやれば、空もやって、10 のカシナで 40 の瞑想をやります。

それを終わって今度はアルーパ。無色。無色の瞑想の中にそういう第五禅「空無辺処禅」とか。それを経典にたよるので「空」と誤解しているわけです。それは「空・空」と入禅しますので、スニャタ・空とは関係のない無色界の瞑想法なのです。

(第六禪 修識無辺処禪 第七禪 修無所有処禪 第八禪 修非想非非想処禪)

だから、それを大学の先生が、「観法の瞑想法で修行しているそうですけれども」とちょっとチラッと書くわけですね。その内容も。だから、やっぱりね、目でパッと見れば分かるでしょう。結局本だけでは目を瞑って解説しているみたいなものだから、「あれは何だ、これは何だ」と。と言う結果になってしまいますね。と言う風に結局何を意味しているか？原文はその通りに書いてあるかも知りませんよ。そのお経として。それを今度現代語で1980年代に解析した時にこう言う結果をもたらすわけです。

仏教は体験なしに通過した場合、大変大きな問題を起こす

【参加者】

それで、「空」って言うのは、そういうヴィパッサナーと言うか、そう言った所から「空」には…？

【水源師】

もちろん、最終段階で入って行くけれど、「空」はただ「空」を観られないです。相当な行をやって最終段階の最終の最終の方に行って初めてその行に入るくらいで。その前にあった過去六生とか未来生をどこまでも続くまで観る、もう盛り沢山の行があります。それ全部通過して「絶対空」を観る行法が出来るけれど。結局私が32分身法をやらせたのは、アスバの瞑想法でその項目が入っているけれど、言葉でしょう？それを言葉としてやった場合には、全然意味を成さないわけです。でも、32分身と言う所、それだけでもう相当時間かかるでしょう？でも、それを一旦やってしまえば、後は言葉でオクケーなわけです。確認したから。それで体験したから。

結局仏教はそういう風に体験しないでただそれを通過した場合には、もう大変大きな間違いを起こすし、全然アスバの瞑想にもなりません。それで解説する人は全て体験して実際にそれを観た場合には明快に分かるけれど、本から本の場合は本に書いているからと言うそういう瞑想法でやった場合には、教えた本人も間違いが分からないですし、教えられた方も全然分からないと思います。どっちも分からないと言うのが殆どの現状ですね。

それで32分身法は非常に大切な瞑想法で、実は。あの短い。あれから全てチャクラの動きが分かるのです。それで不思議なヨガとか、全てここから出ているわけです。わざわざお釈迦様がその行程で書いたのは、ただ書いたのではなく意味があるわけです。それをずうっと繰り返して行けば不思議なものが観え始めます。

だから、お釈迦様の教えと言うのは、もう我々の理論とか「ああだろう、こうだろう」と言うのはやめて、ただ一生懸命言われた通り修行して行けばご褒美が沢山貰え

ますよという事です。でも、私達は学校で「ああだ、こうだ」と頭で受け入れなければ絶対受け付けないその様に仕組まれて勉強している。その原理はさっき言った、結局エンパイアー・オブ・シティーの原理で皆さんが統轄されているという事を私が皆さんにお伝えしているわけです。

3つの子供がもう阿羅漢になると言う大矛盾を起こす

【参加者】

もう一点なのですが、仏教ではあと「空」と「無我」って言う事がよく言われるのですが、その「無我」って言うのもよく分かりませんが、ヴィパッサナーで「無我」って言うそういう境地に行けるのですか？

【水源師】

そこがまた大問題でね。実際にアニッチャ(無常)、ドウッカ(苦)、アナッタ(無我)。それで、アニッチャ自体を観てその時点で最終の最高地に到達するのです、もはやアラハトになるわけです。涅槃に達する。それが銀細工師が蓮の花がちょうど時間が経つ内に変化すると。アニッチャ。もう一つは「アナッタ、無我」。アニッチャ、ドウッカ、アナッタ。この三つが、この全宇宙のベースになっているわけです。これで構成されている。このベースが。この物質が「地水火風」になるわけです。そのエレメントで、今度は28の物質とそれから89のナーマ。心の変化が組み合わさって私達が出来ているわけです。

その「無我」、それ自体のサブジェクトが分かった瞬間でアラハトになるわけです。だから、あなたはアラハトのサブジェクトを受けてそれを瞑想している。もうその位にあるという事(笑)。それは空も全部分かっている状態でやっているという事。だから、何を教えているか、教えられているか何も分かっている事になります。

と言う事を精神界の人は説明しなければいけないでしょう。このサブジェクトはこれだけでアラハトになると。と言う話を私がしているわけです。アニッチャ、無常。「ああ、無常、分かった」。そしたら、アラハトですよ。「では説明しなさい」と。「解析しなさい」と。言葉で言っているだけで。それはね、三つの子供でも言えます。では、三つの子供が、もうアラハトさんですか？何でも分かります？と言う大矛盾を起こすわけそれで皆「仏だ、仏だ」と言うけれど、仏だったら全て分かるからね。宇宙の秘密から何から。それで何でも作れるし。そうですか？ただ言葉のアヤ。まあ、そういう所でどうでしょうか？

虹の体

【参加者】

あの虹の体についてお聞きしたいです。

【水源師】

虹の体？虹の体ですか？どこから聞きました？

【参加者】

本です。

【水源師】

ああ。それはね、チベットのお坊さんがね、レインボーブッダと言うのかな。虹。虹。虹の仏とか言う…はっきりは忘れたけれど。そのお坊さんがね、死ぬ時に自分の体を虹の色に出して、でドンドンドンドン若返って行くわけ。若返って行って、最終的に赤ちゃんみたいになってプッと消えたと。それで、死んで行ったと。この世から去って行ったと。その事をあなたは聞きたいのですか？

【参加者】

そうです。

【水源師】

だから、そういう話を聞いた事があります。純化して行けば、お釈迦様は五色の舍利を出したと。普通はそういう風に綺麗に出さないのだけれども、とても純化していけば体が虹の様にキラキラ純化してしまうのだらうと。ただ、それはね、心の状態だと思う。心を非常に鋭く純化させた場合には、この部屋が全部虹色に見え始めます。色んな虹で輝き始めます。と言う目が出来るわけです。また、そういうお坊さんが非常に心で純化した場合には、体も虹色に見せると。

だから、日本ではどうか知らないけれども、韓国のお寺に行ったら必ずお釈迦様が飾って、その後ろにお釈迦様がいます。それで頭から虹色を出していますよ。七色の色。サーッと。何時でも七色、虹。だから、仏の位になれば体から虹色を出すのかなあ？とか。もちろん、ゴールデンカラーで出すかもしれないけれど。

仏舎利

【参加者】

日本に仏舎利って言うのはあるのでしょうか？

【水源師】

ありますけれども、それはもう日本の宝の中の宝で、その仏舎利は西大寺に本物があって、数える程しかないと思います。また、仏舎利はその国を守るとか、良い事を起こすから、お釈迦様が死んだ時に8つの大国が戦ってその舎利を取ろうとしたわけです。それを8つに分けて戦争を治めたという話を聞きました。

そして、その仏舎利は殆ど今、地上に無いと言われています。天人が天界に持って行っていると。何故かと言ったら、舎利をちゃんと丁寧に祀りしなければ、それを天界の人が取って行ってしまうみたいです。結局宇宙人が岩の中に入ってスッと通って行くみたいに、天界の人は何とも問題ないわけです。私達は取れないけれど。

それで、こういう話を聞いた事があります。韓国のあるお寺で、韓国では仏教が非常に昔から続いて大事にしているわけですね。特に仏塔あるでしょう。仏塔、韓国式の。あれはただ出来るものではなく、非常に祈りを捧げて大事に作るわけです。そして、その中に仏舎利を入れるわけですね。それでお祭りをしなければいけない。お祭りを。

それでお祭りを怠ったみたい。「あれは迷信だろう」って。それで開けてみたら仏舎利が消えていたって。そしたら、オイオイ泣いて「ああ、これは大変だ」と、もう皆さんパニックを起こして、もう朝から晩までお祈りをしたり、何か修行をしたら仏舎利が戻って来たって言う。だから、仏舎利でも下手にしたら天人が取って行くみたい。それでまた、仏舎利それ自体はその国を守ったり、良い事起こすと。

人間と言うのは本当に狂ったもので、わからないという事は魔にも変身してしまう

だから、タミルタイガーと言ってスリランカにテロリストが居ったでしょう？その国で内乱を起こそうとして、今は制圧されたけれど。その時一番困ったのは仏国だから、兵隊が敵でも殺したくないと。それで、非常に困ったと聞いています。それで何とか制圧したけれど、そのタミルタイガーと言うのはトラックに爆弾を積んで、仏歯槽のお寺に突っ込んで来たみたい(笑)。それでまたお釈迦様が悟りを開いた菩提樹あるでしょう？あそこにもトラックで突っ込んで来ようとした。それを全部兵隊が止

めたけれど(笑)。その菩提樹に何の罪がありますか？(笑)お釈迦様の齒に何の罪があってそのお寺を破壊しに行くのでしょうか？

だから、人間と言うのは本当に狂ったもので。魔にも変身してしまうし。分からないという事は。つまり、分かっている事はそういう物を破壊すれば不幸が起きると。全部スリランカがね、結局リビア、シリア、イラク、アフガニスタン、パキスタンみたいに内乱になると。魔物達は楽しいなとなるわけです。その人達は馬鹿じゃない。同じ国に生まれて。国を破壊してそれでどこに行くのでしょうか？この人達はその後で、難民としてまた出て行くわけですか？実際そうしたけれど。トロントにも来ました。かわいそうだなと思って助けて、話を聞いたら後でスリランカに行ったらそんな事をしているわけです。でも、世界では難民だ、何だと一生懸命宣伝して、「いや、もういじめられて、そうなのかな？」と。行ってみたら全く話が違っていました。

江戸時代の方が幸せか？現代が幸せか？

【参加者】

今は現代社会、結構ストレスとかでなかなかリラックスが出来ない人が多いと思うのですが、日常から体を楽にするために、リラックスするために何かした方がよい事ってありますか？

【水源師】

それは当然あります。それは自分の時間を作る事。説明したでしょう？結局、ガバメントと言うのはコントロール。Government。政府。それはどういう風にコントロールするかって言ったら、娯楽を与える。全ての、何でも良いから娯楽。もう一つは恐怖を与える。今みたいにテロリスト。もう一つは死ぬだけ働かせる。それはストレスになりますね。恐怖でしょう？娯楽でも朝から晩まで遊ぶでしょう？それから、もう一つは死ぬだけ働かせるでしょう？息つく暇もないわけです。これが過去3200年のローマ帝国の手法。何も変わっていないのです。

前は夕方5時になったら、おっちゃんが全部仕事を辞めて屋台で酒を飲んだりワイワイしたけれど。江戸時代も宵越しの金は使わないと。全部飲んでしまおうと。そういう風な気楽な時代だったけれど、今はそんなしてみなさい？ローンは払えない、大変だって。だから、江戸時代の方が幸せか？現代が幸せか？この文明社会と言われているけれど。私は江戸時代でおっちゃんのお話を聞いて屋台でおいしいものがあったらそれ食べて星を見てそれでいいなと。特に私が、ラオスの北の町の名前忘れたけれども、タイの有名な北の都市チャンマイからそこに行くのだけれど。

【参加者】

ルワンプラバン。ルワンプラバンですか？

【水源師】

ううん。ああ、そう、そう、そう。そんな所で北の方ね、それよりもっと遠くの北町で中国のシイサンバンナに近い。それで、日本の方が、沢山そのチャンマイに行くのだけれど、その川を越えての町より更に遠く離れた都市あって、バスで、でっかい街に入ったわけです。夜は、みんな昔、夜店屋さんでは、屋台で何かアセチレンあるではないですか。アセチレンライトで。シューッて。それで、たこ焼き売ったりとか。電球がないのです。アセチレンを点けて、それが光になってその下でみんな美味しいもの食べるわけです。その街はね、電灯が無くて。つい10年か20年前ですよ、私が行った時。

それでアセチレンを点けて美味しい焼きそばとか作って、人が食べ私も食べて、それで空見たら満天の星で、いやあ笑い出した。昔を思い出して。本当に楽しくて、夜空…街を歩いて電灯が無いのですね。でも、アセチレンでもう夜空の星。昔を思い出したわけ。昔そうだったのですよ。銭湯に行って帰って街には電灯が無いけれど、綺麗なお月様が空中に浮かんでおとぎの様な、いやーッと。

だからね、今、外を見て下さい。そんな沢山星が見えないと思う(笑)。光公害と言って、全然イメージがね、違うわけです。昔は電灯が点いた時に逆に「いやあー、凄い文明化だ！」って。「ああ、凄い、凄い！」と。ところが、こうしている内に、もう慣らされてそういう…。その北のちょっと大きい街で、中国の国境に近い方の所で。それで歩いたら、いやあ、ほんと幸せいっぱいと言う。昔幸せいっぱいだから、そういう環境で星を見たら本当に笑い出す。「アハハハハッ」。

【参加者】

うちの神様はどこに行きましたか？うちの神様は今もこの辺にいますか？自分の家に帰りますか？戻ったかどうか？それを…

【水源師】

ああ、神様は行ったり来たりして何時も人を守っています。

阿羅漢にはそう簡単になれない、「心心伝印」で種を植えてもらわなければ、、

【参加者】

アラハトの話なのですが、アーチャン・チャー様はアラハトになられたという認識なのですが、あそこのお寺でやっている修行法などを聞きますと、まあ大し

て何もしていないと。作務して、まあ坐る事は坐ってらっしゃる様なのですが、特に細かい瞑想法を指導されている事は無いって言うのをお聞きしたのですね。それでアラハンになれるって事は、やっぱりそれなりの行を積まないと成れないって言う事なのかなって思っていたので、やっぱり過去生か何かそう言った所で修行を積まっていたのかなと。

【水源師】

いやあ、やっぱりそれだけの基礎修行はしなければいけないし。そう簡単に出来ないと思いますよ。ただ、ダンマパーダを読んだら、お釈迦様に出会ってそれが花開くっていう事はあるけれど。スリランカの話だったかな？どっかだったかな。結局アラハトになるっていう事は本当に荒難行でそう簡単になれないわけです。それで、ある程度二人のお坊さんがある町で修行してドンドン高めて行って、それで預流果に達してその後サカタガミ（一來果）、アナガミ（不還果）になっても、そう簡単に上に行けないわけです。それで、高い人の離れた岩の所に住んで。穴倉に住んで。もう一人も穴倉に住んで、先にアラハトになったら、こう紙に火をつけて灯して、（アラハトに）成ったと言う…知らせると。それで、そう言う事で、町の人みんな分かっているわけです。二人が一生懸命修行していると。そういう風にこう作務して、寝ている、とんでもない話で。

たぶん、瞑想、瞑想だと思いますよ。ずうっと。観法で。ヴィパッサナーをやっていた。それで、ある日町の人がワーッと騒いで、「火が点いた！」と。「成った！」と言うわけ。そしたら、もう一人も「バーッと火が点いた！」と言ってそうなったわけ。それで大騒ぎになったわけです。1800年代、スリランカの王様が「アラハトに会いたい」と。「我が国には一人もアラハトがいない」と。それでイタリアから来たお坊さんになった人が「よし。私がアラハトを連れて来ましょう」と。王様がとても喜んで。そして、その人がミャンマーに行ったわけです。ミャンマーに行って、アラハトの位になった人を連れて来て、王様はとっても喜んで、その比丘へ一生懸命お布施をしたみたいです。下にも置かない様に。ちょっと話これで、納得いきます？あなたのアラハトと実際の歴史的なアラハトとは違うでしょう。

【参加者】

では、とにかく、ただ坐って瞑想していただくだけでもアラハトになれると言う事なのですね？

【水源師】

そうですね。それには種を植えてもらわなければ。心心伝印。心心伝印のこれは究極の何て言うかな。眼蔵って言うでしょう。曹洞宗で良く言うでしょう。（参加者；正法

眼蔵?)正法眼蔵!正法眼蔵の究極がここ。心心伝印。だから、種を植えてもらわなければ、幾らやっても、結局お釈迦様に出会わなければ、そういう風に花開かない。だから、「心田」と言ってね、「一生懸命耕して下さい」と。ポッと種が落ちたら、それがいつの日か花咲きますと。それが心心伝印。

【参加者】

その種の話があったと思うのですが、この3年間と言うのは10日の合宿が毎年行われたという事で、やっぱり特別な3年間だったのですか?

【水源師】

そうです。

【参加者】

この後と この3年より前の期間と言うのは、どう違っていたのですか?この3年

【水源師】

この前の3年は心田を耕す初期段階で。でこの3年間は一生懸命種植えて、それがちょうど成長し始めたのです。だから、皆さん色んな現象起こして、その前に来ない人でも、来る前にどこかで、一生懸命心を耕して瞑想していたと。それで一緒にやっている人は、一緒にやっている内に益々耕されて、色んな現象とか法を得ているという事です。それで、良いですか?後はあなた方が種を植えて行くと。大きくなって。だから、私は一安心。良いですか?もう、十分?はい、じゃあお経。

瞑想中にカチンと叩く音が???

【参加者】

先生、最後に瞑想中に何かカチカチカチって何かこう音がしたのですが…。先生なんか、やられました?

【水源師】

全然していないよ。

【参加者】

何か、一時間の瞑想中に3、4回カチンってこう何か音がしたのですが…。

【水源師】

全然していないよ。

【参加者】

先生がカチンってしているのだと思いました。

【水源師】

いや、全然していないよ、私。

【参加者】

何もされてなかった…？

【水源師】

何にもしないし、私は何も聞こえないよ。

【参加者】

いや、凄い大きな音がしました。

【参加者】

そうでしたよね(笑)。

【水源師】

私は全然…。

【参加者】

3 禅目？昼食の前ですよ？

【参加者】

そうですね。3, 4 回。棒でパシって叩く様な。

【参加者】

そうそう、そうそう。

【水源師】

していないよ。全然。私が夢うつつでしたの？

【参加者】

アハハハハ(笑)

【水源師】

何もしていないって…それに、私も聞こえないもん。幽霊が出て、やったのだろうけれど、私には聞こえない。黙って…そんなに大きく聞こえたの？

【参加者】

聞こえました。

【水源師】

へー、不思議…。見た？誰かが叩いているの。

【参加者】

いや、目つぶっていました。

【水源師】

私も目つぶっていた(笑)。



ガネーシャ、プロナル、スリランカ

水源禪師法話集 79
(2017年5月6日 大阪合宿8日目)

2018年4月12日 発行

編集兼発行 一乗禅の会